

未来への協働

ニュースレター No.12

<https://kyodomirai.org>



2026年1月1日(木)

発行 未来への協働

〒 577-0023

大阪府東大阪市荒本 2 - 14 - 5

電話／FAX (06) 4306 - 3512

郵便振替 00940 - 8 - 213061

Email : miraihenokyodo@gmail.com

毎月 1 日発行 頒価 200 円 (送料別)



国際法を無視する日本政府を批判する申惠ボンさん（青山学院大学教授）=11月22日、大阪市東成区／無償化連絡会・大阪のホームページより転載

外国人差別・植民地主義を糺す

昨年11月22日、「朝鮮学校を支援する全国弁護士フォーラム2025大阪」が大阪朝鮮中高級学校（大阪市東成区）で開かれた。

パネルディスカッションでは、元文部科学省事務次官の前川喜平さん、元東京高裁判事の岡口基一さん、青山学院大学法学部教授の申惠ボンさんがパネリストとして登壇。

前川さんは「朝鮮学校も当然無償化の対象に入っていた」と話した。岡口さんは「司法が抱えている限界がよく表れた裁判だった。行政が憲法に違反する差別を行ったとき、それを正すのが司法の役割。大阪地裁の勝訴は実に真っ当な当然の判決だった。その後に敗訴が続くのは、司法が機能していないと

いうことだ」と一連の判決を分析した。

申さんは「国際法に沿ってすべての人に人権や社会権があると謳われてきたが、朝鮮学校への差別を国連から何度も勧告されているにもかかわらず、日本政府は『国内法に優先しない』と却下してきた」と政府の姿勢を厳しく批判した。

無償化連絡会・大阪の共同代表の藤永壯さん（大阪産業大学教授）は、「外国人学校を高校無償化から排除するという情報がある。高校無償化制度は、国際人権規約や社会権規約に基くもの。日本政府の『外国人に与えてやる』という傲慢な態度が差別の根源だ。外国人差別の根底にある植民地主義を糺さなければならぬ」と結んだ。（陶山）

戦争と法－私たちの現状認識を問い直す

「命と暮らしは守られるのか」 永井幸寿さん (弁護士) の講演より

昨年6月刊行された『戦争と法 命と暮らしは守られるのか』(岩波新書) の著者で弁護士の永井幸寿さんの講演を聞いた(12月6日、神戸市内)。講演会の主催は自由法曹団兵庫支部、青年法律家協会兵庫支部、兵庫県弁護士9条の会。

永井さんは、「高市発言を批判すると、SNSなどで逆に叩かれるような世相だが、あらためて戦争と法について考えてみたい」と、次のように話した。
[講演の要約は編集部]

戦争と災害

戦争と災害はどちらも多くの死傷者が出る。大きな災害はしばしば起きるが、あらかじめ被害を想定したり、シミュレーションしたりすることでその対策を立てられる。災害対策の1次的な権限は市町村にあり、都道府県が「後方支援」に当たることになる。

一方、戦争は「人が起こす」ものだが、その想定が困難だ。戦争はトップダウンで遂行される。また戦争は外交の延長であり、外交の失敗もある。その責任は国にあるが、被害を受けるのは国民である。だからこそ私たちは「知る権利」があるのだ。

避難について考えてみたい。災害の場合は、避難所を設け、炊き出しや食料、医療、仮設住宅など必要な物資やサービスの提供ができる。戦争の場合に適用される国民保護法は災害救助法とほぼ同じだが、災害救助法と違うのは、「自衛隊の協力」がないことだ。自衛隊は戦争に「専念」しているからだ。太平洋戦争末期に住民を巻き込んだ地上戦となった沖縄戦では、日本軍は住民の避難に協力することはなかった。補償はどうか。災害救助法には「遺族」に対して500万円などの給付があるが、戦争の場合はそれに相当する補償はない。

軍隊は住民を守らない

自衛隊は一体何を守っているのか。自衛隊の任務を定めた自衛隊法3条は次のようになっている。

「自衛隊は、我が国の平和と独立を守り、国の安

全を保つため、我が国を防衛することを主たる任務とし、必要に応じ、公共の秩序の維持に当たるものとする」

自衛隊が守るのはあくまで国=国家なのであって、国民・住民ではない。ちなみに警察法2条は「個人の生命、身体、財

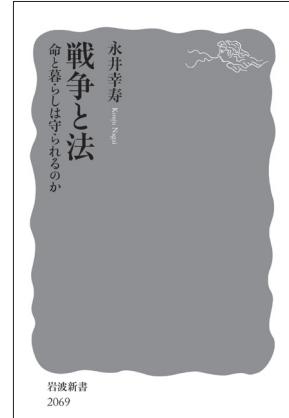
産の保護」を「警察の責務」としている。消防法でもその第1条で「火災を予防、鎮圧し、国民の生命、身体及び財産を保護する」ことが消防の目的であると明記している。このように国民・住民の生命・身体・財産を守ることをその責務や目的として掲げている警察や消防と、自衛隊との違いは明らかである。

「軍隊は国民を守らない」ということや、「緊急事態」の名の下に国民の権利がいかに制限されてきたかは過去の戦争の歴史を見れば明らかだ。戦後の日本国憲法には「権力に濫用される危険」があるため、あえて緊急事態条項を設けていない。「緊急事態」への対応は、災害救助法や新型インフルエンザなど個別法で対処できるし、それで充分である。

戦争をしない方法は

それでは戦争をしない方法はあるのか。欧米では安全保障についてDIME(外交 Diplomacy、情報 Intelligence、軍事 Military、経済 Economy)の4つの要素を総合的に活用するという考え方があるが、日本では過度に「軍事」に比重を置く傾向がある。昨今の中国・台湾問題がそうだ。1972年の日共同声明で「日本国政府は、この中華人民共和国政府の立場を十分理解し、尊重」としたことの意味を考えるなら、日本政府は両岸問題の平和的解決に向けて努力すべきである。

国益とは国家の利益ではない。国民の命と豊かな暮らしを守ることである。



翁長クミコさんの勝利を!

沖縄・名護市長選 1月25日投開票

沖縄・名護市長選
(1月18日告示、25日投開票)に市議の翁長クミコさん(地域政党・沖縄うないネット)が立候補します。翁長さんは、「市民のくらしを守る」「新基地はノー」の2つの明確な旗印を掲げ、3期目を目指す現職の渡具知武豊氏と対決します。また翁長さんの後をつぐ市議補欠選挙には屋良りほさんが立候補します。

翁長さんは名護市生まれの69歳。名護高校から兵庫県の武庫川女子短期大学体育科へ進み、卒業後は地元で健康運動実践指導者として活躍。市民の



翁長クミコさん

声、現場からの声を行政に反映したいと市政に挑戦。2010年から15年間名護市議として活動してきました。一期目当選時は、辺野古新基地問題にはあまり関心がなく、市民がなぜ反対しているのか分からず、平和祈念資料館で沖縄の歴史を学び直したとか。辺野古のテントに泊まり込みながら反対運動に参加し、「寝袋市議」と呼ばれるようになったそうです(後援会のチラシより)。

基地依存・交付金頼みで市民生活を顧みない今の市政から、「市民主体の街づくり」をめざす翁長さんを、市民は熱い思いで支えています。玉城デニー知事を先頭にオール沖縄も全力で応援しています。

翁長さんの勝利は来年の県知事選にも関わります。これまでの名護市長選と同様、国・政府や新基地建設で利益をむさぼるゼネコンなどは、あらゆる手段をとって翁長さんを妨害しようとしています。名護市長選での翁長さんの勝利は沖縄と日本の未来を切りひらくものです。全国からの支援を!

※詳しくは「おながクミコ lit.link(リットリンク)」で検索を。

戦争辞さない高市政権に 市民の怒りの声

神戸・毎週土曜日の辺野古行動から

2025年12月13日、辺野古の海に基地をつくりさせない神戸行動。青空だが寒さは厳しかった。5人がスピーチ。「高市首相は、戦争の準備を進めている、反対する人たちを弾圧しようとしている。スパイ防止法を考えている」「高市首相は、台湾有事問題で中国を怒らせた。歴代首相は、中国と仲良くしてきた。安倍元首相も中国を逆撫でするような発言はしなかった。高市首相は中国に謝るべき」。

憲法前文と9条をゆっくりと読み上げた女性は、「この精神で世界中が平和になるように。武力で平和はつくれません」。「高市政権を許している日本国民にも愛想がつきる。戦争に向かっていることを知らないのか」と怒る人。「子どもや孫たちの未来に、申し訳ない」と訴え、ギターを弾きながら「いつまでも俺たちを舐めるんじゃないぜ!」と力強く歌う人(写真)。「2万円の給付の話はどこに行った。企

業の内部留保金は、働く人たちからピンハネしたお金だ。高市首相は『働け、働け、働け』とけしかける。病院が倒産している。若者の死亡原因の第1位は自殺ですよ!」。通行人がスピーチに応え、手を挙げて賛同していた。

中年女性が「外国の友人が、なぜ日本はアメリカの言うことばかり聞くのか? アメリカと手を切った方がいいと言っている」と署名。赤ん坊を抱いたご夫婦が、「高市首相は最低ですね」と怒りをぶつけた。初老の女性から「高市首相の答弁は最低。みなさんといろいろお話し、スッとしたしました。沖縄には何度も。頑張ってください」とエール。

元朝日新聞政治部の記者さん、東京小金井市の元市長さん、元『週刊金曜日』記者さんも参加。「多くの参加者、署名も多く素晴らしい」との感想も。神戸行動は年中無休、毎週土曜午後1時~2時、神戸・三宮マルイ前、この日は577回目。どなたでも参加歓迎。(なかい)



ウチナーとヤマトを結ぶ 辺野古海上行動の人びと ②

海保の拘束をかわした！



ボーリング櫓にアタックするカヌーが海上保安庁の隊員の拘束をかわした瞬間＝2025年9月18日、名護市

「あっ！拘束（海保員による）をかわした」「また、かわした！」と平和丸船上から興奮した声が沸き起こった。カヌーを操作しているのは毎土曜日、本島南部から来ているKさんだ。この後、さらにもう一度、連続3回、海保隊員の拘束をかわすのに成功。

私は、まだ一度も海保の拘束をかわせたことがない。他にも拘束をかわしたメンバーはいるが、3度もかわしたのはKさん以外にない。平和丸船上から歓声が上がったのもうなづける。Kさんの卓越したカヌー操作術を知ってはいたが、3回もかわすとは。

Kさんは教員なので、毎週土曜日にしか抗議行動に参加できない。われわれのカヌーチーム「辺野古ぶるー」には、ベテラン指導者のTさんがいる。Kさんは、そのTさんのお墨付きの腕前である。

拘束をかわす間合い

翌週の土曜日は、月1回の「ゲート前県民集会」だった。Kさんも参加していた。「3回も連続、海保隊員の拘束をかわされたのですね！何か特別な秘策があったのですか」と訊いた。Kさんは控えめに、「GB（ゴムボート）から海保隊員がカヌーめがけ海に飛び込む瞬間に、カヌーの底を足で踏みつける（蹴る）と船尾が瞬間沈み、海保隊員は目標が

なくなるのです」とのこと。拘束後、海保隊員に「拘束できたと思ったでしょう」と声かけると、彼は「はい、急に目標がなくなって海に突っ込んでしまいました。班長に叱られますね」と答えたそうだ。

カヌーは「足で漕ぐ」

「カヌーは手で漕ぐのではない。足で漕ぐのだ」と言われる。私も最初どういうことなのか、わからなかった。カヌーチームを埋め立て作業現場から遠ざけるために敷設されたオイルフェンスは、最初はプラスティックの小玉（直径30センチ弱）を数珠繋ぎにしたものであった。多くのカヌーメンバーは、小玉のオイルフェンスを難なくカヌーで乗り越えていた。私は何度挑戦しても、できなかった。先輩メンバーからは、オイルフェンスにカヌーの先端が乗りかかったときに、「足でカヌーを蹴るのだ」との助言をもらったが、「どうやってカヌーを足で蹴るのだろう」と途方にくれた。

結局、私の考えた方法はカヌーの一番後ろに座り、勢いをつけて漕ぎだし、オイルフェンスの小玉の間にカヌーが乗りかかった瞬間、体をカヌーの先端に移動し、体重をかけて乗り越える、というもの。これで、やっとオイルフェンスを越えることができたが、「足でカヌーを漕ぐ」はわからずじまいだった。

フェンスを越え声をあげる

5、6年たって、カヌーの操作にも慣れたころ、Tさんが本格的にカヌー教室を開いてくれた。そこで、今までの我流のカヌー操作から、理論的にカヌーの操作技術を学ぶことができた。Tさんは、「身体のなかで最も筋肉が強いのは太ももだ。この筋肉を使わない手はない。カヌーを漕ぐときにもこの筋肉を使うと、推進力と艇の操作性が高まる。カヌーは足だ」と力説された。

私も7年目にしてやっと、「カヌーは足で漕ぐ」ことが体感できるようになった。おそらくKさんの見事なかわし方、「カヌーの底を踏みつける」という操作も「足で漕ぐ」ことの応用編だったのだと気づいた。

6月から姿を消していたサンドコンパクションが12月1日、6艘すべて大浦湾に戻ってきた。13日は、海上大行動だ。「辺野古ぶるー」は抗議のため、オイルフェンスを越えて声を上げる。海保の拘束をかわしながら。（住田一郎）

強制移転させられた 洞部落の史実をたどる

奈良県橿原市 フィールドワークに参加して

畠傍山（奈良県橿原市）の中腹にあった旧洞村。
部落差別による強制移転の史実を学ぶフィールド
ワークに参加した（11月24日）。最初に集合場所
の近鉄電車「畠傍御陵前駅」前で説明を受けた。この
駅の橿原神宮側には皇室専用の大きな扇がある。
現在は閉鎖されたままで「使われることはない」と
いうことだ。

この後、洞部落が移転された橿原市大久保地区に
ある「おおくぼまちづくり館」に移動し、館内を見
学した。部落の生業であった下駄や草履の表づくり、
靴づくりのビデオや、強制移転にまつわる資料が展
示されている。引率、説明してもらったのはMさん。
昼食の後、強制移転に関する話を聞いた。1920年、
208戸、1054人が洞村4万坪から1万坪の大久保
(窪地、低湿地帯のところを示す地名)へ移動させ
られた。

洞部落があった畠傍山の麓には神武天皇陵と橿原
神宮がある。神武天皇陵は、架空の人物である「神
武天皇」の墓があったとして幕末の1863年に作
られた。橿原神宮は神武の宮があった場所として、
1889年に造られ、1912年から1926年にかけて
大規模な拡張が行われている。

大正天皇の行幸のため

1915年、「大正天皇の神武陵行幸」の報が伝わ
ると被差別部落であった洞村を「全村移転させよ」と
いう声が出始めた。

「畠傍山の一画、しかも神武御陵に面した山脚に、
御陵に面して『新平民』の墓がある。吉いのではない、
今も現に埋葬しつつある。しかも、それが土葬
であり、新平民の醜骸はそのままこの神山に埋められ、
靈山の中に爛れ腐れ、そして千万世に白骨を残
すのである。…… どだい、神山と御陵の間に新平
民の一団を住まわせるのが、不都合この上なきに、
これを許して神山の一部を埋葬地と為すとは、こと
ここに至りては言語道断なり」（後藤秀穂『皇陵史



洞部落の跡地に残されていたレンガ造りの水利施設を
見学する=2025年11月24日、奈良県橿原市

稿、1913年)。

強制的に移転を迫られた人々は、古い家を自分たちで取り壊し、柱などを大八車につんで移転地まで運び、そこで約2カ月かけて家を建て直した。村の墓は一片の骨も残さぬように警察官立会いの下で掘り起こされ、移転させられたという。人々はその間も、生活のために仕事をしなければならず、極めて厳しい生活を強いられた。この移転期間中に、わかっているだけでも13人の命が奪われた。特に赤ん坊の死者が多く、当時の労苦が偲ばれる。

天皇制の暴力と狡猾さ

洞部落に関する最初の論文を雑誌『部落』（1968年）に発表した立命館大学教授の鈴木良は、前出の『皇陵史稿』などを根拠として強制移転論を説き、それが主流となっていた。しかし、洞部落出身の辻本正教が「強制移転ではなく自主献納だった」と言い出し、それが定説になってしまった。部落改善の目的もあったとはいえ、自主的にすすんで移転したとは決して言えない。天皇制の狡猾さを実感する。

今も残る洞部落の跡地を訪ねた。草履表に使う
シュロの木が何本も生えていた。村の、レンガ造り
の共同井戸も残っており、茶碗や瓦のかけらも落ち
ている。すでに105年の歳月が流れている。後に
植えられた樹木で原生林のようになっており、村は
完全に消失していた。

「貴族あれば賤族あり」（松本治一郎）。部落を強制
的に移転させるという天皇制の暴力性を、さまざま
と見た思いがした。（蒲牟田宏）

日暮れて途遠し⑧

どこが間違っていたのか オルタナティブを模索しながら

日本における左派・リベラルの衰退は著しい。「新左翼」だけでなく既成政党も同様である。社民党は衆議院で1議席、参議院で2議席。共産党は衆議院で8議席、参議院で11議席まで減少。機関紙「赤旗」はピーク時の380万部から85万部にまで落ちこんでいる。国政だけを語っているわけではないが、私たちの身近な市民運動でもほぼ高齢者中心で、若者の参加が少ない。

ところが、「政治には関心はないし、選挙も行かない」というのが若者のパターンであったはずが、2024年東京都知事選、衆院選、兵庫知事選などで一気に若者たちが動いた。彼らは既成の政党やマスコミを否定・拒否して、SNS情報を自らの判断基準として選択した。「あんなデマになぜダメされるのか」と嘆いていても、そこには若者たちなりの根拠があるはずだ。どうしてなのか、私たちはどこが間違っていたのだろう。

以下は、老いた頭を悩ませて考察してみた試論(私論)である。

労組再編の方針の無さ

1990年代にバブルが崩壊し、春闘型の労働運動が不可能になった。その後、新自由主義が本格的に導入され、労働市場においても非正規雇用が4割近く（青年や女性では5割）に拡大した。従来の労働運動が存立する基盤がもはやなくなってきたのだ。

正規職だけを組織した企業別労組ではなく、欧米のように産業別個人加盟労組に早期に移行すべきだったが、日本の労組指導部や指導政党は混迷するだけでそれを怠った。今や労組の組織率は20%を割る。何故、関西生コン支部に国と資本の攻撃が集中するのか、その存在の大きさを改めて確認できる。

「産業別個人加盟労組などは絶対に許さない」という強固な国家意思がそこにある。政府は、春闘大会に首相を招いて喜んでいるような懐柔しやすい連合型労組のみ許して、階級支配を有利に運び停滞する日本資本主義の建て直しに必死である。



関西生コン支部、全港湾大阪支部などが250台の生コン車、トラックで大阪市内をパレードした=2018年

私たちが労組の再編に致命的に遅延したことが若者たちを苦境に追いやり、失望させてしまったのではないか。関生支部を守ることを先頭に、日本中に産業別個人加盟労組を作る方針を訴えていきたい。

新しい社会主義変革の道を示せず

1991年、ソ連が崩壊して資本主義化することで冷戦が終結した。さらに、経済的に行き詰まっていた中国やベトナムが外資の導入や市場経済・私的経営容認で一気に躍進した。これは「社会主義神話」が崩壊したということ以外にない。

この情勢に対して的確な分析と方針を発することができた党派は全く存在しなかった。これは多くの左派活動家やリベラルな市民たちをがく然とさせた。私自身もその一人であり、「今まで信じてきたもの、人生をかけて苦労して来たことは何だったのか」と、先が見えなくなってしまった。

本来ならこの歴史を画する事態にたいして、混迷のなかにあっても社会主義者はマルクスやレーニン主義の絶対化から脱却して、深い思想的葛藤をともなう研究のし直しが必要とされたのだ。世界の動向を見れば、多くの社会主義者がマルクス以来の理論と実践、「社会主義国」といわれた国々の実態解明の上に立って、新しい社会主義変革の道と国家像を明らかにする努力をしてきた。

しかし、日本ではそういう思想的潮流に学ぶことがないどころか、「小(プチ)ブル」「転向」と決めつけて無視・排除したのではないだろうか。レーニン主義との決別については『未来への協働』の中では、ほとんどの共通認識だろうから、マルクスについてだけ少し述べたい。

マルクスを解説する力量など私には全くないが、資本主義というものを解析した歴史的偉業をなしたのは間違いない。しかし彼の死から142年が経つ。

その間、世界は全く静止していたわけではなく、かつてない激動を経験してきた。マルクス理論を絶対化するのではなく、相対化して「現代を分析する」ことが世界の社会主義者に求められてきたのだ。マルクスは1920年代の世界恐慌も、第一次・第二次世界大戦も、冷戦も、…そもそも1917年ロシア革命も知らない。まして新自由主義を知らないし、非正規労働者という概念も当時はなかっただろう。

私がこの様に語るのは、日本共産党の『赤旗』を見て痛感したからだ。「マルクスを勉強しよう」「マルクスに戻ろう」という呼びかけが若者獲得の主な方針になっている。昨年行われた第49回民主青年同盟の参加者の感想から学習会の内容がうかがい知れる。学生の一人が「資本主義が発展した先に社会主義があるという科学的社会主义を学び、社会が大きく変わる展望が見えた」と語っている。社会主义到来の「歴史的必然」なんてものはないと言ってやりたい。共産党の現状認識の甘さと方針の皆無に驚かざるを得ない。

日本共産党の解党的危機

日本共産党は1980年の第15回大会をピークにして、議席数も党勢も後退を続けてきた。「社会主义圏」の敗北で冷戦終結という世界情勢の影響もあっただろうが、それに対する党指導部の方針の余りのお粗末さに失望した党員や支持者も多かったのではないか。

自民党にソ連崩壊について質問（揶揄か？）された宮本顕治議長（当時）は、「巨悪の崩壊万歳！あれ（ソ連）は社会主義でも何でもなかった」と答えた。宮本議長の自己保身丸出しの、左翼の魂を投げ捨てた姿は見苦しい。獄中19年のなれの果てか！良心的で民主的な人びとが共産党から離れていくのは当然だ。

今、共産党中央に批判的意見を述べて除名、除籍処分を受けた党員が続出している。その一人の鈴木元氏が『革新・共同党宣言—日本共産党に未来はあるのか？党歴60年の経験から提案する民主勢力再生のための試論』を出版した。

鈴木氏の略歴は「1944年大阪生まれ、高校時代に60年安保闘争を経験し、18歳で共産党に入党。立命館大学で部落解放同盟の大学介入や全共闘の大学解体攻撃と闘い民主化を進めた」とある（このあたりで反論したいところだが我慢）。鈴木氏はその

後、京都を活動拠点にした党幹部として人生のほとんどを共産党に尽くしてきたが、2023年に『志位和夫委員長への手紙』を出版し、問答無用に党から除名処分され、権力の謀略の手先と決めつけられた。加えて除名処分に反対した他の党員も除籍処分。このことに象徴される党中央のあり方は党内からも厳しい批判を受けて、その後の選挙で雪崩を打つように敗北を重ねた。「出版する前に党内で意見を述べ、討論を重ねなかったのか」との意見もあるだろうが、それは不可能なのだ。

そもそも党内では、会議で意見を言う前にその内容について指導部の許可を得なければならない。つまり自由討論などは実質禁じられているのである。

鈴木氏はさらに党内の実態を以下のように語る。「離党・未活動が進み、半分近い党員が『赤旗』を購読せず、党費を納めず、会議に出席せず、行動参加率はさらにその半分という解党的状況」。なぜこんな党になってしまったのか、その原因を、鈴木氏は第一の要因として「民主集中制という組織原則」にあると断言している。



民主集中制という独裁

「民主集中制」はレーニンが指導していたコムンテルンから導入されたものである。「ツアーリ（皇帝）による専制国家であったロシアでの革命は軍隊的組織でなければならない」という見解に基づく。

1903年のロシア共産党第二回大会でも民主集中制は課題化されるが、まだ「批判の自由と行動の統一」と柔軟であった。レーニンはロシア革命後の1921年党大会で緊急動議として「分派禁止」を提出し、参加者に強硬に認めさせた。その後ボルシェビキ以外のメンバーの意見は「分派」すなわち「反革命」と断定され、秘密警察を使って追放・肅清へと拡大強化されていった。

分派規定は、民主集中制の「要」である。日本共

産党はコミニテルンを通じてこの組織原則を学び、党中央が独裁的指導権を握り続けられる鍵として採用した。そしてこの「組織原則」は共産党から「新左翼」諸派に引き継がれた。レーニン主義という、私たちが数十年と「信仰」してきた立脚点を俎上に載せるならば、分派規定も秘密警察も強制収容所を作ったのもすべてレーニンである。スターリンはそれを引き継いだのだ。

「反スターリン主義」と「レーニン主義の継承」を共存して語ることの矛盾を私たちはもっと自覚しなければならない。ソ連政治指導部はレーニンを神格化する一方で、同志虐殺も農民殺しも反人民的なことはすべてスターリンがやったこととし、ソ連の政治体制の自己保身を図ってきた。

現在もなお、レーニン主義と民主集中制の首枷のもとにある人びとに語りたい。民主集中制とは独裁以外のなにものでもない。そのような組織原則など根本から解体して、開かれた組織や運動を構築していこう。

オルタナティブを求めて

私の50年来の友人で、同じく精神障がい者の高見元博氏が鹿砦社から『ミッシングリングー日本左派運動の失環』を発刊した。「日本左派の混迷の中に光明はあるのか。左派復活のカギを提言する！」

「日本左翼を衰退させた内ゲバ主義の元祖はエセ・マルクス主義者のレーニンだった。左派衰退の乗り越えの論理である反内ゲバ主義とはレーニン否定のことだった」と彼は本の中で訴えている。次の機会にこの本の書評を書きたいと思う。

話は飛ぶが、なぜ私があえて日共批判をしたかといえば、私たちが経験してきた数十年（半世紀か）にあまりにも類似しているからだ。私は大切な友人たちを、ある日突然、党中央の都合で「反革命」と呼びたくない。「権力の走狗」とは呼びたくない。

本紙前号に載った書評『シン・アナキズム 世直し思想家列伝』には、「社会的運動は原理・理念・理想を集団的あるいは主体的な人間の力で新しい社会を実現するというものであり、根本的に自然科学とは違う。しかし『存在が意識を規定』する壁に挑み、歴史や人間社会への洞察や思索によって未来社会を構想するのは大切なことだ。自分を振り返ると、かつての「歴史的必然」の理解が「信心」に近かったように思え、反省させられる。……社会のオルタナティブをめざして、現実と格闘する人々の真っ白で真剣な姿に励まされる」とある。ここ数年を省みても、これほどシックリ心に入り込んだ記述はなかった。おこがましいが同じ道、同じ苦闘を歩んできた友人の格闘の声だと感じる。ありがとう。

(朽木野リン)

「斎藤は知事失格だ！」

兵庫県庁ヒューマンチェーン第7波

兵庫県議会12月議会の最終日（12月12日）、「斎藤知事の辞職を求めるヒューマンチェーン第7波」が行われた（写真右）。この冬一番の寒波の中、県庁前に市民40人が集まり声を上げた。

12月議会の焦点は、斎藤元彦知事が再提出した「給与カット条例」修正案。傍聴した市民は、「自民・維新・公明が継続審査。県民連合・共産・丸尾議員が反対。躍動の会が賛成。採決の結果、継続審査に決まった」と報告。各会派の意見は「責任の取り方のみを先行させ、事案の核心があいまいのまま議会に判断を迫る現在の状況は受け入れ難い」（自民党）、「知事の情報漏洩指示について説明がない、論外である」（県民連合）、「知事の管理責任を問うもので

あって、刑事告発の有無を判断するものでない」（躍動の会）、「第三者委員会の報告では知事の指導（指示）が問われている。幕引きは認められない」（共産党）、「県による情報漏洩問題は、まだ終わっていない。知事の説明、県の対応は納得がいかない」（丸尾議員）など。



県庁前の抗議行動では市民らが、「兵庫の民主主義を破壊している。斎藤は知事失格だ」「県職員の自死、パワハラの責任をとっていない」「法律を守らない知事はいらない」とアピール。主催者から、県議会の初日の2月17日に第8波ヒューマンチェーンを呼びかけた。さらに、「知事辞職」に向けて声を大きくしていく。（庄）

追悼 知花盛康さん

「まつろわぬ民」の誇り 貫いた人生

11月22日 沖縄・読谷村の知花盛康さんが亡くなられました。享年79歳。盛康さんは4、5年前に体調を崩し、その後ガンを発症。入退院を繰り返しましたが、自らの希望で、読谷村宇座の自宅に戻り、おつれあいの艶子さん、4人のお子さんや孫、ひ孫に囲まれて穏やかに逝かれたそうです。朴訥という言葉がぴったりの、柔軟で、語り口も穏やかな人でした。同時に政治や社会の不条理への怒りは強く、どんな弾圧を受けても「反戦・平和の信念は貫き通す」(1988年本人の裁判意見陳述書から)人でした。心から御冥福をお祈り申し上げます。

盛康さんは1947年読谷村に生まれました。幼いころから両親や周りの人たちから戦争中の話を聞いて育ったそうです。若いときに村を離れて県内外で働いていましたが、祖母が亡くなったことを契機に村に戻りました。読谷村で生き、村を発展させるためには、基地・戦争のない平和が何よりも大切と、知花昌一さんらとともに「平和のための読谷村実行委員会」を立ち上げました。

そして、あの1987年10月26日。沖縄国体ソフトボール会場となった読谷村平和の森球場で昌一さんが「日の丸」を焼き捨てた日、盛康さんはその現場にはいなかったのに「昌一の逃亡を助けた公務執行妨害」という全くのでっち上げで逮捕・拘留・起訴されました。盛康さんは6年かけて完全無罪判決を勝ち取ります。

盛康さんが那覇地裁での意見陳述(1988年1月26日)で語っていることがあります。「(宇座には)チビチリガマと同じように、ヤーガーという自然壕があります。当時は大きなデイゴの木に囲まれていて、部落の人々が『どんな爆撃にもたえられる』と信じ、婦女子や老人を中心に避難していました。激しい米軍の攻撃で、一発の爆弾がヤーガー上におちて一瞬のうちに地獄と化し、24名の犠牲者を出したのです。大勢の人が死に、また大きな岩に下半身が挟まれ助け出せなかった老人、童謡を歌いながら4日目に死んでいった14歳の少年もいたそうです。



元気な頃の盛康さん。艶子さんとの最後の旅。2019年福岡にて(ご遺族提供)

こういった類の話をいつも聞かされてきました。」

盛康さん夫妻は、宇座に2014年に居を移し、農業を生業としながら修学旅行の子どもたちを受け入れる教育民泊を始めました。盛康さんが戦跡を案内し、今の沖縄の問題を子どもたちと語り合い、艶子さんは沖縄料理を一緒に作りながら子どもたちと気持ちをつなげてきたそうです。

70年代から80年代にかけて、文部省(当時)は公立学校への「日の丸掲揚・君が代斎唱」の「指導」を強めました。各地で実施率が上昇する中、沖縄では学校現場での「日の丸掲揚」がゼロでした(85年文部省調査)。90年の学習指導要領では、小6社会科に「天皇についての理解と敬愛の念を深める」ことが明記され、「日の丸・君が代・天皇」の三点セットが日本の「教育」にはめ込まれます。

昭和天皇は戦後、精力的に全国を回り再び天皇制のもとに国民をからめとることに務めましたが、唯一足を踏み入れられなかつたのが沖縄でした。1987年の沖縄国体は、「まつろわぬ民」沖縄に、「日の丸・君が代・天皇」を踏み絵として踏ませ、屈服させようという、きわめて政治的「国体」でした。沖縄では「天皇来沖反対」「日の丸・君が代強制反対」の声が高まり、戦争を知る世代から中・高校生までたちあがりました。昌一さん・盛康さんたちの行動はそのうねりの中で生まれたのです。

昨年10月、参政党が「日本国国章損壊罪」を盛り込んだ刑法改正案を参院に提出しました。「国旗・国歌」を損壊した場合、刑事罰を科すというものです。自・維の連立政権合意書でも同様の罪を来年の通常国会で制定することを目指すとしています。

私たち一人一人が、「まつろわぬ民」として生きる覚悟を問われています。「盛康さん、安らかに眠ってください」という送る言葉にその決意を重ねます。

(山野 薫)

不条理、差別を描く 障害者の恋の物語



映画『オアシス』

監督 イ・チャンドン
2002年製作／133分／韓国

障害者を描いた映画で一番感動した映画を紹介します。韓国映画『オアシス』です。先ごろまで入院していた病院の看護師さんや、リハビリの先生に盛んに薦めました。

私は、世界で最もうまい俳優は韓国のソル・ギヨングだと思っています。彼は数々の映画やドラマに出演していますが、とくに感銘を受けたのが光州事件に出動した兵士の苦悩を描いた『ペパーミントキャンディー』です。小学校への通学路で暴行魔に襲われ、こころに傷を負った娘との絆を取り戻す父親役を演じた『ソウォン・願い』、それと日本のプロレス界のヒーロー力道山を演じた『力道山』。ソル・ギヨングは、力道山の役作りのために体重を22キロ増やし、94キロにしました。彼のたどたどしい日本語のセリフ、力道山の苦悩と悲しみが胸に迫ってきました。

最近では、ネットフリックスで配信された「グッドニュース」の、nobody（チェ・ゴミョン）役が面白かったです。「グッドニュース」は、赤軍派の“よど号”ハイジャック事件のパロディ映画です。事件の解決のために動く謎の人物を演じています。

『オアシス』は、知的障害者の青年ホン・ジュンドウ（ソル・ギヨング）と重度の脳性麻痺女性であるハン・コンジュ（ムン・ソリ）の恋の物語です。この映画は、なんといっても健全者のムン・ソリの演技がすごいです。ホンマの脳性麻痺者と思えるぐらいです。

ジュンドウは、兄の起こしたひき逃げ事故の身代わりになり、刑務所に2年6ヶ月間入っていました。刑期を終えて、ひき逃げ事故で死んだ清掃人の家に謝りに行きます。被害者の家族（コンジュの兄夫婦）は、コンジュを古いアパートに残して障害者用住宅に引っ越し…。残されたコンジュと出会います。やがて二人の間に恋心が生まれ、デートを重ねます。ある昼下がりに、コンジュとレストランに入るので



映画『オアシス』のワンシーン

ですが、レストランの経営者から「営業は終わった」と入店を拒否されます。他の客が食事しているにもかかわらずです。私もこれに近い経験があります。「空いてるなあ」と思えるお店に入っていくと、「今日は予約でいっぱいです」と言われることがあるのです。それは本当かも知れないし、断る口実かも知れないと勘ぐってしまいます。

映画の圧巻は、コンジュとジュンドウが結ばれるところで兄夫婦に見つかり、ジュンドウが警察に突き出されます。コンジュは警察で事情聴取を受けるのですが、取り調べの刑事に答えるのは兄の奥さんです。コンジュの恋心を完全に無視。コンジュは、車いすごと警察の壁際にある金庫にぶつかって気持ちを伝えようとするのです。このシーンで、私は泣けました。自分の存在と意思を伝えられないもどかしさや辛さを見事に描いています。

私もスーパーで子ども扱いされる時もあるし、介助してくれている連れ合いに話しかけます。「ワシ、自分でも言えるにゃけど」と心の中で思っています。

はっきり言って、こういう映画は日本では絶対に出来ません。俳優の力量と監督の演出力が違うのです。障害者が生きていく上での不条理、差別を見事に描いた作品です。障害者の親近者は都合のいい時は障害者を利用し、不都合な時は排除と差別する奴が多いと思います。これは、私の個人的経験です。兄弟と仲の悪い障害者、多いもんね。

（こじま・みちお）

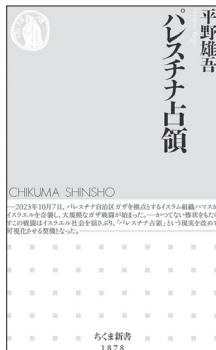
映画『オアシス』は、2002年韓国MBC映画賞で最優秀作品賞、監督賞、脚本・脚色賞、主演男優賞、主演女優賞、新人女優賞を獲得。同年の第59回ヴェネツィア国際映画祭において、監督賞、新人演技賞、国際批評家協会賞などを受賞した。



悪を行なわせしめる国家

『パレスチナ占領』

平野雄吾・著
ちくま新書 2025年 960円+税



「悪の陳腐さ」

1961年から62年にかけて、エルサレムでアドルフ・アイヒマン（※1）の裁判を傍聴したハンナ・アーレントは、組織の命令に服従するだけの「悪の陳腐さ」と表現し、「全く思考していないこと、それが、彼があの時代の最大の犯罪者になる素因だった」と、普通の人をしてかくも残虐な大量殺戮を平気で行なわしめる国家の戦争動員やイデオロギーに注意を喚起した。

建国間もないイスラエルでは、第1次中東戦争が休戦になったばかりで治安も安定せず、社会は「力強さ」を求めていた。「なぜ羊のように従順に殺されたのか」「なぜ抵抗しなかったのか」。ホロコーストはユダヤ人の「弱さの象徴」とされ、侮蔑の対象でもあったという。

ベンギリオンらシオニスト指導層は、伝統的ディアスポラ（離散）ユダヤ人を受動的で弱い存在とみなし、力強く生産的な「新しいユダヤ人」を掲げた。かかるなか、イスラエルシオニストは、この裁判を一大イベントとして徹底的に利用したと…。

アウシュヴィッツの生存者

裁判では、アウシュヴィッツの生存者を120人も証言台に立たせた。生々しい殺戮の証言や、気を失う証言者の映像は、映像・ラジオ・新聞の報道で、イスラエルの大多数の市民に突き刺さった。「ユダヤ人国家があれば、ホロコーストはなかった」と語られ、イスラエル国家の存在意義が語られてきた。ホロコーストの記憶がイスラエルのユダヤ社会に根づき、「ユダヤ民族の共通の記憶」として「ナショナルアイデンティティへ昇華させた」のは、この裁判においてであるという。

「国家がなかったから虐殺された」「ユダヤ人の避

難場所としてイスラエルを守る」ことが、教育の場で政治の場で繰り返し訴えられ、「(国民に) 国家を守るためにには、殺し殺される準備を求めた」というほど、徹底的に教育した。かつての日本か、と思われるほど…。ホロコースト教育の核心は、「新たなホロコーストに準備する必要がある」ことに主眼があり、「恐怖」を基盤にしている。ナショナリズムは国防意識へ導かれ、幼稚園からホロコースト教育が始まり、高校ではアウシュヴィッツ見学学習があり、直後に徴兵されイスラエル軍に組み込まれていく。

「被害者意識」の増殖

他方、「ホロコーストでユダヤ人に支援の手を差し伸べなかった」欧州諸国、「我々に説教する権利はない」と罪悪感を持ち続けることが欧州諸国に突きつけられた。

イスラエルの心理学者は、この「被害者意識」の増殖が、①道徳の崩壊=ユダヤ人は歴史的迫害の被害者で、敵を倒すには道徳的意識に縛られる必要がない、②道徳上の権利獲得=ユダヤ人に脅威を与えるものは誰であれ、危害を加えてもよい、③道徳上の沈黙の強要=「他国はユダヤ人に道徳を垂れるな」などの現象を生んだという。

「平和へ」 草の根の動き

教育が、過去の苦しみを盾に現在の暴力を正当化し、他者との関係性を学ぶ機会を奪っていく。アーレントの指摘がブーメランのごとく、イスラエルの人々に、またわれわれにも飛んでくるようだ。どうして、ホロコーストを経験したユダヤの人々が、パレスチナの人々の苦しみを理解できないのか、素朴な疑問が少し溶けた。

しかし、著者はイスラエルの「ベツェレム（※2）」や「ピースナウ」「人権のための医師団」などの人々が占領の不当性を訴え、そうした動きは、10・7以降、草の根レベルで着実に広がっていると付け加えることも忘れない。(石田)

（※1）アドルフ・アイヒマン ナチスドイツの親衛隊将校、数百万におよぶユダヤ人を強制収容所へ移送した指揮者。

（※2）ベツェレム イスラエルの占領下、パレスチナ人に対する人権侵害を記録し、その存在を否定する行為に対して行動する団体

三里塚の産直野菜

「冬本番」寒さて 糖度を上げる野菜たち

三里塚も「朝は氷点下」の日も、多くなってきたらしい。野菜の生育や収穫後の保存に気を配らなくてはならない季節の到来とのこと。野菜たちも寒さを乗り切るために、糖度をあげ、美味しいくなり、味も深くなるのだそうだ。「年末、お正月」野菜セットも準備されている。12月半ばに届いた、いつものセットを開けてびっくり。白菜の大きく重いこと、ちょっと持てないほど。それで、柔らかくて美味しい。例年、注文をしてもらっている人たち10人ほどに案内したところ、さらに10人ほどに拡がり、間違いのないよう注文を整理するのに大慌てだった。(ま)

*三里塚「産直野菜」は有機無農薬。

毎週・隔週、「お試しセット」あり。

[お問い合わせ] TEL／0799-72-5242

E-mail／kanjitsu_mail@yahoo.co.jp (淡)



ドングリの音

渡辺信雄

何の音か
屋根に石の当たるような音
いや、ドングリの落ちる音だ
頭上に繁る樹から
地に落ちてくるのだ
足でゴリゴリ踏みしめると
ここちよい体感がつたわる

まわりから園児たちの高い声
(どんぐりいっぱいひろったよー)
袋の実は季節の飾りとなる
消えない思い出が出来あがる
熊は知らないこと
人は冬眠できない
木枯らしが吹いて
すっぽんぽんの幹と枝は
新しい光につつまる

インフォメーション

■ 1月 17 日 (土)

朝鮮戦争停戦 70 年ドキュメンタリー
「WAmerica の運命」(金哲民監督) 上映会

時間：午後 1 時半～4 時 ※参加費 800 円
会場：エルおおさか南館 101

地下鉄谷町線・京阪電車 天満橋駅より西へ 300m
地下鉄堺筋線・京阪電車 北浜駅より東へ 500m

第1部「WAmerica の運命」上映 (65 分)

第2部「WAmerica の運命 2」巨大な転換 (66 分)

主催：リブ・イン・ピース☆9 + 25

■ 1月 17 日 (土)

第1回学習討論会 世界の核惨事と放射能ヒバク
隠されたヒバクの恐ろしさ

時間：午後 2 時～4 時半 ※参加費 600 円(要予約)
会場：国労大阪会館 1F ホール

JR 大阪環状線 天満駅下車すぐ

DVD 上映会＆フリーディスカッション

チューター：守田敏也さん

主催：脱原ネット関西・福井ブロック

連絡先：ストップ・ザ・もんじゅ

■ 1月 24 日 (土)

新春学習講演会

「台湾有事」を起こさせないために

時間：午後 2 時～4 時 10 分 ※資料代 1000 円
会場：国労大阪会館 3 階大会議室

JR 大阪環状線 天満駅下車すぐ

講師：大西広さん (京都大・慶應義塾大名誉教授)

主催：日中友好協会大阪府連合会

■ 1月 31 日 (土)

「平和への道」上映＆反戦 / 平和討論会

時間：午後 2 時～4 時半 ※資料代 1000 円

会場：エルおおさか 研修室 2

報告 1 我々は何故大阪市民と連帯しようとするのか？

金昌燮さん (素朴な自由人 代表)

報告 2 加害者の立場から世界市民と出会う

権鉉佑さん (韓・ベトナム平和財団事務処長)

報告 3 大阪での反戦平和の闘いと今後の闘いに向けた課題と方向性

古橋雅夫さん (関西共同行動 共同代表)

主催：「平和への道」上映＆反戦・平和討論会実行委員会